

東邦大学学術リポジトリ



OPAC

東邦大学メディアセンター

タイトル	枝松秀雄教授送別の辞
別タイトル	Ferewell Professor Hideo Edamatsu
作成者（著者）	和田, 弘太
公開者	東邦大学医学会
発行日	2016.03
ISSN	00408670
掲載情報	東邦医学会雑誌. 63(1). p.9 9.
資料種別	学術雑誌論文
内容記述	退任記念
著者版フラグ	publisher
JaLDOI	info:doi/10.14994/tohoigaku.2016.r007
メタデータのURL	https://mylibrary.toho-u.ac.jp/webopac/TD21702341

枝松秀雄教授送別の辞

和田 弘太

東邦大学医学部耳鼻咽喉科学講座（大森）准教授

枝松秀雄教授は平成 28 年 3 月 31 日をもって東邦大学医学部耳鼻咽喉科学講座（大森）教授を退任されます。就任以来 11 年 7 カ月にわたり、東邦大学医学部耳鼻咽喉科学講座（大森）を牽引してこられた枝松教授のご退任にあたり心からお祝いと感謝を申し上げます。

枝松教授は昭和 52 年に東京医科歯科大学を卒業された後に同大学の渡辺いさむ教授の耳鼻咽喉科学教室に入られ、平成元年に金沢医科大学助教授、平成 9 年に獨協医科大学越谷病院耳鼻咽喉科の助教授を経て、平成 16 年 7 月に東邦大学医学部耳鼻咽喉科学第 1 講座の教授（病院）として就任されました。

枝松教授は耳鼻咽喉科学の中でも耳科学、特に耳科手術を専門とされ東邦大学耳鼻咽喉科の特徴でもある耳科学、神経耳科学において更なる発展をもたらしてくださいました。特に内視鏡を用いた耳科手術は日本におけるパイオニアと言えます。耳科手術においては顕微鏡のみを用いた手術が長い間主流でした。しかし、現在は内視鏡を使用する手術が普及し始めています。その礎を築かれたのが枝松教授です。内視鏡を用いると視野は良くなりますが、狭い耳内では操作が難しくなります。しかし枝松教授はその操作に優れ、安全かつ正確な手術をされておりました。国内外の学会やシンポジウムで大森病院の内視鏡手術の重要性と若手医師への教育効果としての有用性を報告されています。教育面でも優れた後継者を多く育ててくださいました。大森病院においては今後も中耳に対する耳科手術は重要な柱であり続けると思います。また、高度難聴に適応となる

人工内耳においてもパイオニアでした。人工内耳が保険適応となったのは 1994 年ですが、枝松教授は保険収載が始まる前の 1990 年にはすでに人工内耳の手術を施行し、高度難聴でほぼ聴覚をあきらめていた患者さん達に聴力回復による社会復帰や音楽を楽しみ、電話をかけるなど希望の光を与えてきたといえます。平成 16 年に東邦大学医療センター大森病院に赴任されてからも積極的に耳科手術をされ、周辺地域のみならず関東一円から患者さんが来院され、中国やロシアからも患者さんが枝松教授の手術を希望し来院されていました。国際的にも高名な教授であることは間違いありません。また城南地区での地域連携病院との密接な学術交流のための勉強会、研究会も積極的に開催されてきました。

枝松教授は、医局員教育のみならず学生教育にかなりの精力を注いでおられました。5 年次責任者を務められ、多くの学事教育に積極的に参加されてきました。また他科の若手医師に対しても、卒業後 5、6 年経過してからも名前と学生時代の印象を覚えておられ、一見、学生達にとっては厳しく怖そうな先生ではありますが、学生を愛情をもって教育しておられました。意外に思えますが、成績が“あぶない”学生さんをよく心配し、かわいがっておられたように感じます。

残されたわれわれ教室員は、枝松教授が築いた東邦大学耳鼻咽喉科としての伝統と臨床、教育、研究の業績を汚さぬように全員一丸となって努力し継続していきたいと思えます。